



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3064号 2016.6.7 発行

### 河北抄

河北新報 2016年6月6日

アーティストの日比野克彦さんは、ある障害者が絵を描くのを見て衝撃を受けた。植物の写生で、紙いっぱい植木鉢を描いた後、さらに紙を付け足して葉を描く。紙は次第に大きくなっていった。表現とは何かを考えさせられたという。

「キャンパスの中に収めようと、枠を自分でつくっていたことに気付いた」

昨年、仙台市で初めて開催された「東北障がい者芸術公募展」は全国唯一の障害者芸術の公募展として、注目を集めた。東北の障害者施設は約2000。訓練や余暇として取り組まれてきた創作活動で蓄積された作品は多く、予想を上回る844点の応募があった。

今年も来月22～24日、青葉区のせんだいメディアテークで第2回の公募展がある。主催する東北障がい者芸術支援機構の須佐尚康代表理事は「昨年は福祉関係者以外の入場者が7割を占め、一般の関心の高さを示した。独創的な作品から生きる気力が伝わったと思う」と語る。

今後3～5年で軌道に乗れば、公募展を全国規模にする構想もある。仙台発の障害者芸術の広がり期待したい。

### 弟「なぜ…」、自答の日々 障害の兄、母が殺害し自殺か 山本逸生

朝日新聞 2016年6月7日

仏間に飾られたユリ。20年以上、弟は毎年、母の日に花を贈っていた＝新潟県三条市、山本逸生撮影



新潟県三条市の自宅で50歳の男性が殺害された。行方不明になった同居の母親(73)が翌日朝、遺体で発見された。男性は知的障害があったとみられ、県警は悩んだ母親が殺害後、自殺を図ったとみている。なぜ止められなかったのか。家族で一人残された40代の弟は心を痛めている。

5月8日午後8時ごろ。帰宅すると、テレビの前の床に封筒が二つあった。一つには自分の名前。4年前に亡くなった父に触れながら、兄と一緒に父の元に行くと記されていた。慌てて3階に駆け上がると、兄が自室で血まみれになっていた。そして母は翌朝、自宅から約2キロ離れた用水路で遺体で見つかった。

捜査関係者や近所の人によると、男性は仕事がなく、自宅にこもりがちだった。家族はそのことを限られた親戚らにしか話さなかった。小学校では特殊学級を勧められたこともあったが、入らなかったという。

### 他人のiPSで初移植へ、理研 網膜再生に備蓄細胞利用 共同通信 2016年6月6日

他人の人工多能性幹細胞(iPS細胞)から作った網膜の細胞を、目の重い病気の患者に移

植する世界初の臨床研究を実施すると、理化学研究所や京都大など4施設が6日、神戸市で発表した。



記者会見に臨む理化学研究所の高橋政代プロジェクトリーダー（右から2人目）と京都大の山中伸弥教授（同3人目）ら＝6日午後、神戸市  
記者会見する理化学研究所の高橋政代プロジェクトリーダー＝6日午後、神戸市



プロジェクトリーダー＝6日午後、神戸市

iPS細胞から作った細胞を移植した2014年9月の世界初の手術は患者自身の細胞から作ったiPS細胞を使用。他人のiPS細胞は低コスト、迅速に利用でき高品質なのが利点で、再生医療の普及につなげる。

2例目は患者のiPS細胞の遺伝子変異により見送られ中断していたが4施設で再開する。6日記者会見した理研の高橋政代プロジェクトリーダーは「時期は分からないが来年前半に手術をしたい」と説明。

## 悩む内部障害者、4人に1人が「職場の理解ない」 十河朋子

朝日新聞 2016年6月7日

仕事を持つ「内部障害者」のおよそ4人に1人が、職場で病気について理解してもらえないと悩んでいる――。当事者へのアンケートからこんな実態が浮かび上がった。病気の影響で仕事を辞める人もおり、周囲の理解が進むことが期待される。

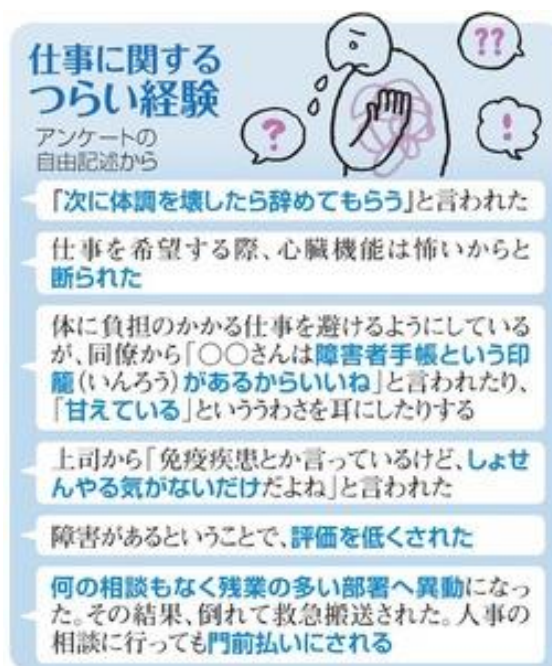
### ■仕事や家事に影響

調査は、長崎県立大と、内部障害者らでつくるNPO法人「ハート・プラスの会」が実施。2013年、障害者や患者団体など9団体の協力を得てインターネットや郵送で配布し、238人が回答した。障害者手帳を持つ人は8割で、病気を抱えているが手帳の申請をしていない人や難病の人らも対象に含めた。

障害の原因となった病気の影響を聞いたところ、「仕事や家事の時間を減らしたり、種類や内容を変えた」と答えた人が35%、「仕事や家事をやめた」人は24%いた。

仕事を持つ人は131人。職場の人に病気について知らせたかどうか聞くと、76%が「知らせた」と答えた。病気について、「よく理解してくれる」（16%）、「一応、理解してくれる」（40%）と答えた人もいたが、「あまり理解してくれない」「全く理解してくれない」と感じている人は23%いた。

仕事で困っていることは、「体力的につらい」と答えた人が32%と多く、「収入が少ない」「精神的につらい」が続いた。



## 外国人旅行者や知的障害者、警官とやりとり円滑に 徳島県警に支援ボード

徳島新聞 2016年6月6日



### 外国人らとの意思疎通に役立つ支援ボード＝県警本部

トラブルに見舞われた外国人旅行者や知的障害者らとのやりとりを手助けする「コミュニケーション支援ボード」861枚が、明治安田こころの健康財団（東京）から徳島県警に寄贈された。「救急車を呼んで」などの要望事項を6カ国語で表記し、分かりやすいイラストを添えている。交番に置いたり警察官が持ち歩いたりして、円滑な意思疎通に活用する。

ボードは、署や交番などに備えるA3判184枚、パトカーに乗せておくA4判127枚、警察官が持ち歩くポケット版550枚の3種類。

「電話してほしい」「気分が悪い」などの表現を日本語、英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語で記している。

「交通事故に遭った」なら車と人がぶつかる絵が描かれており、

字が読めなくても指さして意思を伝えることができる。

県警生活安全部の久次米昌弘部長は「県内全ての署や交番、地域を巡回するパトカーなどに常備して、有効に活用したい」と話している。

財団は障害者らのコミュニケーションを支援するため、ボードを開発。2008年に4カ国語表記のボードを作って全国の警察に寄贈した。その後、訪日外国人が増えていることから、ポルトガル語とスペイン語を加え、方角や落とし物に関する項目を充実させた改訂版を作り、全国の警察に贈っている。

## ウェブに施設の記録 別府・太陽の家「ライブラリー」開設



大分合同新聞 2016年6月7日  
太陽の家関連の出版物が閲覧できるウェブライブラリー＝別府市の太陽の家

別府市の社会福祉法人太陽の家が「ウェブライブラリー」を開設した。太陽の家創設者の故・中村裕博士の著書や節目で出した過去の記念誌など、法人のホームページから誰でも見ることができる。

障害者の働く場づくりを進めた中村博士の回想録「太陽の仲間たちよ」、太陽の家の歩みや写真をまとめた記念誌（創立10、15、25、30、

40周年）など9冊分の電子ファイルを載せている。

ウェブライブラリーは、昨年創立50周年を迎えた太陽の家の記念事業の一環。電子科に通う障害者が開設の準備をした。今後、創立50周年記念誌も載せる予定にしている。四ツ谷奈津子・法人本部長は「施設の記録を今後に残していくために開設した。多くの人に生かしてもらいたい」と話している。

太陽の家は中村博士が創設して以来、全国に先駆けて障害者の就労の場づくりを進め、自立を支援してきた。現在、約1100人の障害者と、約700人の健常者が共に働いている。

ホームページのアドレスは <http://www.taiyonoie.or.jp/>



動かぬ手 生きがいの一針…右半身不自由な常富さん 読売新聞 2016年06月07日

丁寧に針を入れ、刺しゅう作品を仕上げる常富さん（左、廿日市市で）

◇11日から廿日市で刺しゅう展

脳性まひで右半身が不自由な廿日市市の常富芳香さん（76）の刺しゅう展「pekepeke（ペケペケ）—毎日刺繍します—」が11日から、同市宮内、アートギャラリーミヤウチで開かれる。動かない右手を使って一針ずつ丁寧に仕上げた60点の作品が展示される。19日まで。（松田智之）

常富さんは山口県周防大島町出身。1968年、29歳で同市の障害者支援施設「広島ひかり園」に入園した。

手芸部に入った常富さんは職員から刺しゅうの「クロスステッチ」を学んだ。糸を交差させて縫っていき、×の印に編み目をつなげていくことから、園内では「ペケペケ」と呼ばれている。「刺しゅうが大好きになった」という常富さんは、毎日の作業の時間が終わってからも、自室で刺しゅうに没頭した。

動かない右手に針を添えて糸を通す。右手で体重をかけて布を押さえ、一針ごとに丁寧に針を入れていく。時間がかかるため、約1メートル四方の作品を一つ作るのにも、2～3年を費やす。

「毎日刺しゅうします」が常富さんの口癖。園内で結婚した夫と2002年に死別した時も、悲しみに暮れる中、刺しゅうを続けた。また、園内で転倒して足を骨折して入院した際も、看護師に刺しゅう道具を持って来るよう頼み込んだ。「刺しゅうが生きがい」と常富さんは力を込める。

「花」をモチーフに、規則的にまっすぐ伸びた枝から、好きな色の花を咲かせる。誰に教えられるでもなく、刺しゅう糸や毛糸など、違う素材を織り交ぜる工夫も始めた。老眼が進んでからは、規則的で緻密な作品は減ったが、奔放さやダイナミックさが増した。

「最初から『こんな作品にしよう』とは考えず、思いつくままに針を進めていくんです」と常富さんはほほ笑む。

生活支援を担当する同園の職員日向典子さん（44）が「施設の中の評判だけで終わるのはもったいない」と思い、障害者の絵画や工芸品を対象に、広島市内で開催された「アート・ルネッサンス」に出品。2011年度の入選を始め、14、15、16年度と次々に作品が入選した。「ピンクの隣に紫や黄色など、私たちが思いつかない明るい配色で、見ていると元気もらえる」と日向さんは、常富さんの作品の魅力を語る。

入場無料。午前11時～午後6時（入館は5時半まで）で、火、水曜は休館。11、19両日午後1～4時、常富さんが会場で作品制作を公開する。問い合わせは同ギャラリー（0829・30・8511）。



歌うボランティア駅長 読売新聞 2016年06月07日

CDを発売するボランティア駅長の北垣さん（加西市役所で）

◇北条鉄道・法華口駅

◇10日CDデビュー 北垣さん人生の応援歌に

加西市の第3セクター・北条鉄道の法華口駅（東笠原町）で、ボランティア駅長と駅舎内のパン屋で店長を務める北垣美也子さんが歌手として、10日にCD「生きてるって素晴らしい」（税込み1300円）を発売する。いつもの笑顔に通じるような、人生の応援歌となっており、北垣さんは「明るい気分になってもらえれば」と話している。（今村正彦）



同駅は前身の播州鉄道北条支線の開業（1915年）時に建築。木造駅舎は2013年11月、国登録有形文化財となった。

北垣さんは12年9月、地域活性化を手助けしたいと、公募のボランティア駅長に就任。列車発着の度にホームに立ち、右手を挙げて笑顔で見送り、出迎える姿が人気を集めている。駅舎内の一角に同年11月にオープンし、障害者ら4人が店員として働くパン工房「モン・ファボリ」の店長も務めている。

北垣さんは、ギターなどを弾く父親の影響で音楽に親しみ、県立西脇高時代は合唱や演劇に取り組んだ。「新都民合唱団」（東京）にも所属したことがあるという。

姫路市内のカラオケ店で歌っていたところ、音楽プロデューサーの小谷繁さんらと出会い、CDデビューを持ちかけられた。北垣さんは「最初は戸惑いましたが、音楽を通じて地域の方々や悩んでいる人々を元気づけることが出来ればと引き受けました」と笑顔で話す。

タイトル曲「生きてるって素晴らしい」は「生きてるって素晴らしい 大きく手を広げ 空いっぱい自然の息に耳を傾けて 木々や鳥たち ざわめきささやきが 音になって風とともに聴こえるさ」と、人生を謳歌する内容をさわやかに歌い上げている。

CDには「恋風鈴」「鳴らないメール」といずれもオリジナルの3曲を収録。500枚をモン・ファボリなどで限定販売する。

発売を記念して、7月1日午後1時40分と午後3時40分に北条町駅を出発し、終点・粟生駅を折り返す北条鉄道列車内で「CD発表コンサート」を開く。料金は2000円（運賃込み）で、定員先着各40人。

CDについての問い合わせはKプロミュージック（090・9058・5339）、コンサートは北条鉄道（0790・42・0036）。

## 短大生「子どもを笑顔に」 「佐賀女子」ボランティア部1ヵ月 [佐賀県]

佐賀新聞 2016年06月07日  
佐賀女子短大職員の泉万里江さん（右）と、今後の活動方針を話し合う植田真帆さん（左）と部長の野田侑里さん



熊本地震の被災者を支援する佐賀女子短大（佐賀市）のボランティア部発足から1ヵ月以上が過ぎた。これまで学内で集めた義援金を送り、被災地で子どもたちに遊びの場を提供してきた同部には、熊本市出身の学生や、長男が被災した職員も所属。専門分野を生かして「子どもを笑顔にしたい」と話し、長期的な支援のあり方を模索している。

ボランティア部は、こども学科2年の野田侑里部長（19）が友人と協力して4月22日に発足させた。部員は30人。短大の食堂で募金活動をしたほか、5月15日に熊本県合志市を訪れ、被災した障害児と遊んで笑顔を届けた。今月20日には同県南阿蘇村の保育園に出向き、学生たちが折り紙で作ったこまを贈る予定という。

部員のこども学科2年、植田真帆さん（19）は熊本市東区出身。本震で実家のアパートは壁や階段がひび割れた。4月末に同市内の祖母宅で家族と再会し「無事でよかった。安心した」と声を掛け合ったという。今月6～18日に保育所実習で帰省するという植田さんは「子どもたちは地震でストレスがたまっていると思う。笑顔になれるよう実習に臨みたい」と話す。

部のサポート役として被災地訪問の日程を組んでいる短大職員、泉万里江さん（50）の長男（19）は南阿蘇村の東海大農学部2年生。学生アパートで被災した。本震直後の

深夜は連絡が取れず「精神的におかしくなりそうだった」。早朝に「生きている」とメールをもらい安堵（あんど）したという。翌日に迎えに行き、小城市の実家に避難させた。

熊本市のキャンパスでの講義再開を前に、荷物の運び出しのため長男と南阿蘇村に通う泉さんは「まだ復興にはほど遠い。部員と一緒に多岐にわたって支援していきたい」と話した。

部は今後も行政や民間団体と連携して、被災地訪問を続ける。野田さんは「短大で勉強した保育や介護の知識を生かして、子どもたちを元気づけたい」と話していた。

つぼトントンで不安解消 T F T（思考場療法）実践広がる 中日新聞 2016年6月7日



つぼを軽くたたき手順を学ぶ参加者たち＝熊本市で

顔や手などの「つぼ」を人さし指と中指でトントンたたき、不安や不快感などのストレス解消を目指す心理療法「T F T（思考場療法）」の実践が広がっている。

家庭でも自分で手軽にでき、熊本地震の被災地では、避難生活を送る人や地震に恐怖感を感じる人らにやり方を伝えるための講習会が開かれた。

熊本市内で五月二十日に開かれた「被災した職員へのメンタルケアセミナー」。地元企業の産業医、福利厚生担当者ら約三百人が、一般社団法人日本T F T協会（東京都中央区）の森川綾女理事長の指導で、被災者に役立つT F Tの技法を学んだ。左手にあるつぼを軽くたたきながら、「職場でもすぐ使えるね」と話す参加者もいた。

森川理事長は「災害や人間関係のストレスなどで、マイナス感情がわき起こるときに、そのままにしていると、不快な気分を繰り返すことになる。嫌な体験を思い出しながらT F Tを行うことで、過剰な警戒感や不安を軽くできます」と指摘した。

東洋医学では鍼（はり）でつぼを刺激するが、その代わりに二本の指で軽くたたきのがT F Tだ。

特徴は手軽さ。ストレスを感じたときに、自分で一、二分でできる。「手順が簡単で即効性があり、副作用もなく、子どもにも使える」と森川理事長。ただ、嫌な体験を思い出すことが強い動揺につながってしまうときは、セルフケアではなく、医療者に相談することを勧める。

不安を感じる時の手順＝図表参照＝は、眉頭や目の下など顔の部分のつぼを中心に刺激する。体の左右にあるつぼのうちどちらか一方を刺激すればいいという。他に「自分を責めてしまうとき」「怒り、イライラするとき」「体が痛い、凝っていると感じるとき」などのやり方がある。

それぞれ、刺激する部位や回数が異なるが、表1の「圧痛領域をさする」と表3の「ガミュートを五回ずつトントンしながら眼球を動かす」の手順は共通だ。

和歌山県岩出市の紀平省悟・和歌山つくし医療・福祉センター小児科部長は、深刻なト





ラウマ（心的外傷）をかかえた子の治療や、子育てに苦しむ障害児の親に教えている。「私の診療では欠かせません。西洋医学の観点から有効性を立証するのは難しいが、患者さんのセルフケアに役立っている実感があります」と話す。薬物によるトラウマ治療に限界を感じる医療者の中にも関心を持つ人も多い。（編集委員・安藤明夫）

## 避難所 障害者に配慮を 別府・NPO 段差の解消など要望

読売新聞 2016年06月07日

障害者の自立支援を行うNPO法人「自立支援センターおおいた」（別府市千代町）は、熊本地震を受けて別府市内に開設された避難所のバリアフリーに関する調査報告書をまとめ、同市に提出した。出入り口の段差の解消や多目的トイレの整備など、各施設の改善を求めている。

車いす利用者を含むセンターの職員らが、本震後の4月18、19日の2日間、市が設置した42か所の避難所のうち18か所を視察し、通路に段差などがないかを確認した。今回の地震では開設されなかったが、災害時に障害者や高齢者、妊婦らを受け入れる「福祉避難所」になる3施設も見て回った。

報告書は各施設ごとに写真と総評を添えて作成。このうち、緑丘小は体育館の出入り口に階段しかなく、スロープがないため、「車いす利用者や足の不自由な人は、使用が容易ではない」、石垣小や南立石小、中部中などの体育館内のトイレについては「車いすで入れるサイズの個室がない」などと指摘している。

市内には約8700人の障害者が暮らす。車いす利用者の中には、今回の地震で避難所のトイレなどに不便さを感じ、自宅に戻った人もいるという。市は今後、センターや関係団体と避難所運営の改善策を協議する方針。

## 災害時、県施設を福祉避難所に 熊本地震で知事が意向 中日新聞 2016年6月7日

県議会六月定例会議は六日、本会議を再開。自民、チームしが両会派が代表質問した。三日月大造知事は熊本地震を教訓に、大規模災害時に県立施設を障害者や高齢者向けの福祉避難所として活用できるようにする意向を示した。

中沢啓子議員（チームしが）の質問に答えた。三日月知事は「県立施設を福祉避難所に活用いただけるよう市町に情報提供していきたい」と答弁し「県民に福祉避難所の目的の周知を図り、必要な人が利用できるよう理解と協力を求めたい」とも述べた。

福祉避難所はバリアフリーで専門職員がいるなど、障害者や介護が必要な高齢者の受け入れ態勢が整った施設を市町が指定し、災害時に開設する。熊本地震では、指定施設が被災したり、一般住民が避難したりして、福祉避難所が開設できない例があった。

県健康福祉政策課によると、県内では四百四十四施設が福祉避難所に指定されているが、うち県立施設は六施設のみ。今後は特別支援学校を中心に、福祉避難所として使える施設を洗い出し、市町に紹介するという。

また、市町域を超えて避難する場合の広域福祉避難所について三日月知事は「現在二十七施設と協定を結んでいるが、熊本地震の教訓を踏まえると十分ではない。今後さらに増やしたい」と述べた。（井本拓志、井上靖史）

## 人工知能「脅威排除を」＝開発者倫理で綱領案一学会 時事通信 2016年6月6日

人工知能（AI）が社会に与える影響を議論する人工知能学会倫理委員会（委員長・松尾豊東京大大学院准教授）は6日、研究者が守るべき倫理綱領の素案をまとめた。AIが人間社会にとって有害になり得る可能性を指摘し、開発者らに脅威の排除や悪用防止策を講じることを求めた。

素案は、AIには汎用（はんよう）性と潜在的な自立性があることから、研究開発者の想定し得ない領域でも人類に影響を与えたり、人間社会や公共の利益にとって有害なものになったりする可能性がある」と指摘。「人間が創造したもので人間の幸福を損ねることがあってはならない」と戒めた。

その上で、人類の安全への脅威を排除し、潜在的な危険性について社会に警鐘を鳴らすべきだと規定。悪用を防止する措置を講じなければならないとの条文を設けた。（

## 社説：自殺対策白書 若い命をみんなで守る

中日新聞 2016年6月7日

政府の自殺対策白書によると、二〇一五年の自殺者数は二万四千人余と六年連続で減少した。とはいえ、自殺死亡率は欧米主要国と比べ、依然として高い水準だ。自殺予防対策をさらに進めたい。

日本の自殺者数は、一九九〇年代後半から十数年連続で三万人を超える緊急事態が続いていたが、一五年はピーク時よりも一万人以上少なくなっている。

経済状況がやや持ち直したに加え、貸金業法改正により多重債務問題が改善されたことも減少に寄与したとみられる。

とはいうものの、交通事故死者数の約六倍、一日平均六十六人が自殺で亡くなっている計算だ。

白書が特に「深刻な状況」と指摘するのは、若い世代の自殺だ。人口十万人当たりの自殺者数である自殺死亡率は、四十歳代以上では低下傾向にあるが、若い世代ではおおむね横ばいとなっている。十五～三十九歳の各年代の死因は「自殺」がトップ。同年代で死因のトップが自殺なのは、先進七カ国の中で日本だけで、残り六カ国の一位はすべて「事故」だ。

自殺者の年齢構成比で見ると、十九歳以下の割合は2・3%と、この八年間で0・7ポイント増加している。十九歳以下の自殺率は、他の年代と比べれば低いものの、八〇年代や九〇年代に比べ、若干上がっている。若い世代への自殺対策は喫緊の課題だ。

昨年、子どもの自殺が最も多い「九月一日」を前に、「学校が辛いなら、図書館において」と呼び掛ける神奈川県図書館司書のツイートが、多くの共感を得たのは記憶に新しい。

四月に施行された改正自殺対策基本法には、学校に自殺予防教育に取り組む努力義務を課した。

子どもには、強いストレスに直面した場合の対処法を知ってもらいたい。困った時に相談できる大人のいることも。厚生労働省は「子どもが周囲に悩みを打ち明けやすい環境を大人が作る事が重要」と指摘するが、どこまで実行できているか。

子どもの電話相談は、文部科学省の「24時間子供SOSダイヤル」やNPO法人「チャイルドライン支援センター」などが受け付けている。多くの児童、生徒に知ってもらいたい。

北海道では、教職員を対象に、子どものSOSサインや自殺予防に関する指導資料を配布し、研修を実施している。

命を守る取り組みを、全国的に広めたい。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

